



宮城県角田市の宇宙航空研究開発機構(JAXA)角田宇宙センター研究開発員の八柳秀門さん(30)は秋田県湯沢市の自然豊かな地域で育ち、星空を眺めるのが好きな子どもだった。研究の道に進んだきっかけや、宇宙に興味がある子どもたちへのアドバイスを語ってもらった。

(1面に関連記事)

私の地元は田畑が広がる田舎町だったので、夜になると星空がきれいに見えました。流れ星の日は家の前にシートを敷き、寝転がって観察したのを覚えています。

JAXAの仕事に興味を持ったのは中学生の時です。JAXA職員の

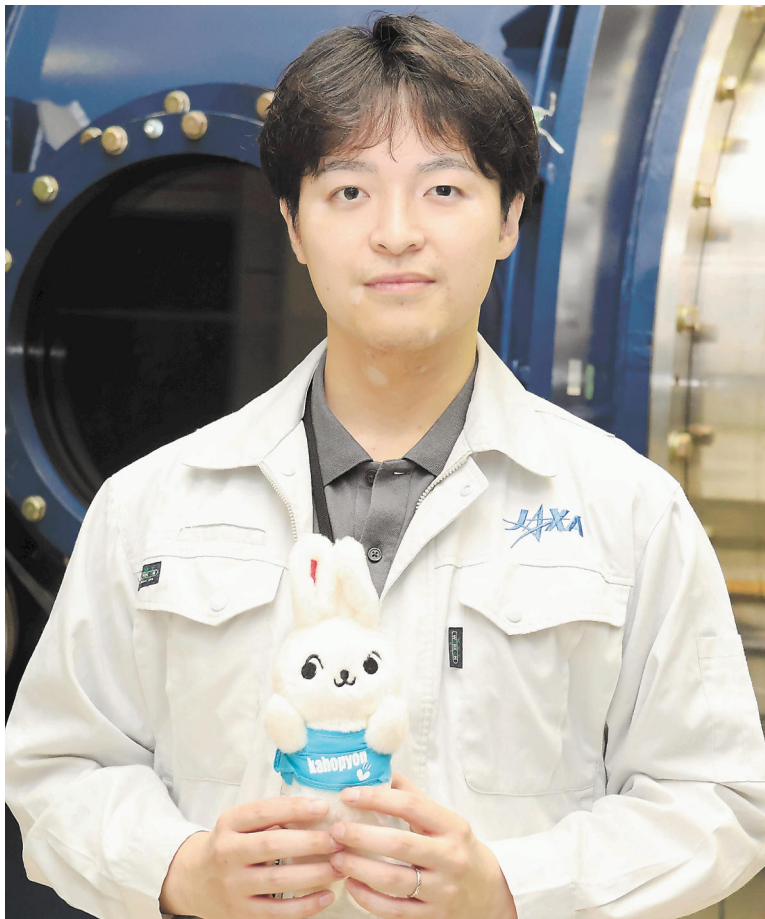
八柳秀門さん(JAXA研究開発員)

オンライン講演があり、宇宙飛行士や国際宇宙ステーションの話を聞き「面白そうだな」と思いました。

宇宙に関わる研究をしたいと東北大学工学部に進みました。転機は3年の時です。配属された研究室でタイミング良く角田宇宙センターと共同研究が始まり、私も参加することができました。最初は知識や経験が足りず、JAXA職員と話し合っても「何を言っているんだろ?」と戸惑うこともありましたが、大学院博士課程に進んだ頃には会話の内容を理解でき、自分一人で研究したり、論文を書いたりできるようになりました。共同研究で一つ一つ知識を身に付けていった感じです。

JAXAに入ってから4年目。一人で黙々と研究するというより、他の部署と協力しながら行う仕事も多く、コミュニケーション能力がすごく大切だと感じています。私は中学、高校、大学とハンドボールをしていたので、仲間と厳しい練習に耐えた経験などが仕事に生かされている気がします。宇宙の研究に興味がある子どもたちにも、小さい頃からコミュニケーション力を高める活動に取り組んでほしいと思います。

また研究者は楽観的な性格の方が向いているかもしれません。実験はいつもうまくいくとは限りません。むしろ、思い通りにいかないことの方が多くあります。毎回「ああ駄目だった」と落ち込んでしまうと、続けるのが大変です。何事も「何とかなる」という気持ちで取り組むくらいがちょうどいいと思います。



「研究者は考え続ける仕事なので集中力も必要です」と八柳さん

やつやなぎ・しゅうと 秋田県湯沢市出身。東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了。2023年、JAXA角田宇宙センター入構。研究開発部門に所属し、高温衝撃風洞を使った研究に取り組む。

河北春秋ノート

「河北春秋」は論説委員が、政治、経済、文化、地域ニュースなど幅広い視点で筆者の意見を織り交ぜて執筆しています。

「河北春秋」を書き写して自分だけのコラムノート作りませんか



好評発売中!!

毎日続けられれば脳が活性化!

1冊
(1ヵ月分)
150円
(税込み)

脳トレ
コツコツ続けると…。
集中力が身に付きます

入試に
読み解く、伝える…。
国語力が高まります

就職に
筆記、面接、小論文…。
時事問題は必須です

お申し込み お近くの河北新報販売店へご注文ください。 お問い合わせ 河北新報販売事業協同組合 平日10:00~17:30 TEL.022-211-1349